

社
SHA

楽
RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.31

2014/08

合併や諸々の理由による会社の消滅に
ともない、それまでの集大成的な記録とし
て刊行される社史があります。

それだけでなく、会社の消滅後、OB・
OG等によって作成された社史もありま
す。最近の新着社史で見かけた中から二点
を、今回の「社楽」では紹介します。

まず、エッソ石油の『元社員が書いた5
0年史』（上・下巻、2014年刊行）。副
題には「彗星のように現れ、そして突然消
えたエッソ石油」とあります。1981年
までを対象とした上巻は「エッソブランド
の誕生と躍進の四半世紀」、それ以降の期

間や、全体的な事柄を扱った下巻は「成熟
と誇り、そして驚愕」というタイトルが付
けられています。ほとんどが元社員・関係
者による記名の原稿です。それぞれの巻末
には「資料編」が付けられていて、年表、
広告・CM、社内報、キャラクター、モー
タースポーツなども記録されています。

上巻の巻頭「初めに」には「中には、抱
腹絶倒の原稿もあるので、気楽に（100
0ページを！）最後まで読んでいただけれ
ば、望外の喜びであります」と書かれてい
ました。項目を見ていくと「エッソ石油の
外国人社員用住宅とエピソード」など、通
常の社史では書かれなかったかもしれない

い裏話的な内容も多く、無くなってしまっ
た会社だからか、気兼ねなく書けた部分も
あるように見受けられました。

そして、何より愛社精神や社員であった
誇りが伝わってききました。書き残さなけれ
ば消えてしまった歴史を、社史というかた
ちで残したかったのだと思います。

（裏面に続く）



会社の歴史が消えないように。

(表面から続く)

つぎに『第一勧業銀行30年の歩み』(2014年刊行)を紹介します。冒頭の「「ごあいさつ」によると、1992年刊行の『第一勧業銀行二十年史』以来、2002年の合併によって、みずほフィナンシャルグループになるまでの行史が空白期間となってしまう、「第一勧業銀行が存在しない今となつては、この10年間をカバーする正式の『三十年史』が刊行されることはまずないでしょう。我々第一勧業銀行に籍を置いた者にとつては寂しい限りでありました。」と刊行への想いが書かれています。

『第一勧業銀行30年の歩み』は、エッセイのように裏話的な内容ではなく、合併に至る10年間の歴史を中心に、丁寧かつコンパクトにまとめています。



いずれも後継会社の協力はあつたそうですが、刊行自体は後継会社からではなく、『元社員が書いた50年史』は「エッセイ50年史編集委員会」、『第一勧業銀行30年の歩み』は「第一勧業銀行30年の歩み」編纂委員会からの刊行となっていました。

(科学情報課・高田)

【クイズ】 A欄の社史の書名とB欄の社名(商品名)を結んでみよう。

| A欄 | | B欄 |
|--------------------|---|-------------|
| 「日々に新たに」 | ・ | TOTO |
| 「鷺」 | ・ | 明治乳業 |
| 「あたって砕けろ」 | ・ | きゅうりのキューちゃん |
| 「炎と情熱の軌跡」 | ・ | サントリー |
| 「かたち・わざ」「こころ・わざ」 | ・ | 戸田建設 |
| 「自然のちからを、未来のチカラへ。」 | ・ | キングジム |

【答え】 「日々に新たに」(サントリー)、「鷺」(キングジム)、「あたって砕けろ」(東海漬物/きゅうりのキューちゃん)、「炎と情熱の軌跡」(TOTO)、「かたち・わざ」「こころ・わざ」(戸田建設)。「自然のちからを、未来のチカラへ。」(明治乳業)です。

★次の機会には、四文字熟語が書名の社史を取り上げたいと考えています。

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4

電話:044-233-4537 FAX:044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>